

14年ぶり決勝進出 躍進の準優勝



得点源としてチームの躍進を支えた西野。優秀選手賞を受賞した11
決勝・東海大戦。撮影・富樫幸恵(文4)

昨年度は2回戦敗退と不完全燃焼のまま終わった男子。悲願の日本一に向け今大会に臨んだ。

初戦で同志社大戦(71-33)、2回戦で大阪学院大戦(88-61)に勝利し、難なくベスト8に進出した。準々決勝の白鷗大戦は、前半こそリード館ほか

準決勝は今季のリーグ戦で2戦2勝と分が良い日大戦。我慢の時間が続く展開になったが、勝負どころで3Pシュートが決まり、86-80で勝利を収め、ついに決勝進出を決めた。

16年ぶりの優勝をかけた挑んだ決勝の相手は今季のリーグ王者であり、昨季のインカレで敗れた東海大。試合は第1ピリオドで早くも10点差をつけられる苦しい展開。アブ・フィリップ(経営3・アレセイア湘南高)のインサイドや西野曜(経済2・近大附属高)のミドル、盛實海翔(商3・能代工高)の3Pシュートなどで流れをつかもうとするも、さらにリードを広げられ70-88で敗れた。それでも14年ぶりに決勝進出を果たすなど堂々の準優勝。個人賞として盛實が敢闘賞、3P王、アシスト王、西野が優秀選手賞を受賞した。

佐々木優一監督は「この舞台に来ることができたのは選手たちのおかげ

女子は5位



エースとしてチームをけん引した渡部=日本経済大戦

全日本大学バスケットボール選手権(女子)12月10-15日定戦へ。拓大を68-61で

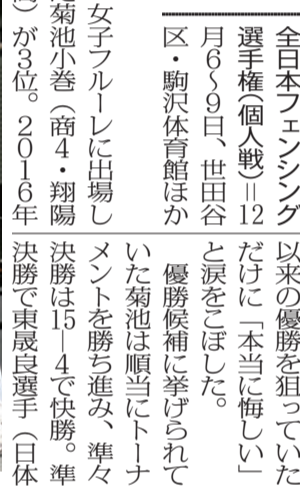
日、大田区総合体育館ほか

準々決勝で白鷗大に65-73で敗れ、5-8位決戦へ。拓大を68-61で

エースの渡部友里奈(文4・昭和学院高)は「大学最後の試合という重みをかみしめながらプレーした。5位決定戦はもっと点差を離して勝ちたかったが、今やるべきことを全部した結果」と振り返った。

(山下佳帆・経営1)写真

フルール 菊池 涙の3位



女子フルールに出場した菊池小巻(商4・翔陽高)が3位。2016年決勝で東晟良選手(日体大)と対戦した。

全日本フエニシング選手権(個人戦)12月6-9日、世田谷区・駒沢体育館ほか

女子フルールに出場した菊池小巻(商4・翔陽高)が3位。2016年決勝で東晟良選手(日体大)と対戦した。フルールは順当にトーナメントを勝ち進み、準々決勝で15-4で快勝。準決勝で東晟良選手(日体大)と対戦したが、11-15で敗れた。菊池は「失点後に気持ちの整理ができ

ともに3位

フリー 荒木 63kg級
吉永 57kg級

全日本レスリング選手権12月20-23日、世田谷区・駒沢体育館

吉永は、社会人選手を立て続けに破る快進撃。準決勝は互いに一歩も譲らない攻防の末、僅差で敗れた。それでも、「くじけずに戦えた」と語るように3位決定戦を制し、「全日本で3位になったことはこれからのレスリング人生でも生きる」と誇らしげに語った。

専スポ写真展開催中

生田キャンパス9号館3階連絡通路で専大スポーツ写真展が開催されている。専スポ編集部が撮影した2018年の選手たちの活躍を収めた写真30点を展示。各場面を伝える文章も添えられており、見応え十分。また、一角には陸上競技部専属の学生力メラマンで共同開催者の中村貴太さん(文4)の力作を展示する特設コーナーを設けている。期間は1月30日(水)まで。多くの人に見ていただきたい。(八代哲・経済2)

馬場 3年連続2冠



賞状を手に笑顔の馬場

全日本学生チャンピオンズ大会12月20-23日、北海道・音威子府村チセネシリクロスカントリーコース

ノルディック種目の10ギフリーと15ギクラシカルに出場した馬場直人(経営4・中野立志館高)が両種目で優勝。3年連続2冠を成し遂げた。

今季はトレーニングを見直し、筋力面と技術面を重点的に強化してきた馬場。専大スキー部一丸となって1ポイントでも多く獲得できるように頑張りたい」と意気込んだ。(藤森)

山岳部が冬山合宿 爺ヶ岳に登頂



登頂成功を喜ぶ部員たち

12月22日から26日まで、山岳部が長野県と富山県にまたがる北アルプスの爺ヶ岳(標高2670m)で冬山合宿を実施した。

4年次生1人、2年次生4人、OB1人の計6人が参加。途中、悪天候で1日足止めされたが、予定の行程内で無事頂上に登頂に成功した日の天気は良好で、部員たちは澄んだ青空の下、頂上からの景色を堪能した。(飛田翼・文4)